



エン麦野生種の黄化症状について

1 概要

8月下旬より本所管内のエン麦野生種で、葉が黄化する症状が複数、確認されています(写真参照)。

症状の見られるサンプルを診断した結果、エン麦野生種のいもち病と確認されました。

については、現状で分かっている病気の特徴と対応について、以下のとおりまとめています。



写真1 本所管内で見られた
エン麦野生種の黄化症状

2 病気の特徴

- ・平成23年(2011年)に道南で確認されました(国内初発生、写真2)
- ・エン麦野生種とイタリアンライグラスに感染します
- ・水稻のいもち病と同じ病原(カビ)です
- ・病斑は、初め紡錘形で、中央はクリーム色、周辺は褐色次第に拡大して葉身全体が枯死します

3 対応

本年は記録的な猛暑であり、暑さで黄化している可能性があります。写真2のような病斑があるかどうかを必ず確認してください。

病斑が確認できて、エン麦野生種の株が枯死していたり、雑草の発生が多かったりする場合には、早めにエン麦野生種のすき込みを実施し、残渣を土壌中で腐熟させましょう。



写真2 エン麦野生種の黄化症状
(北海道病害虫防除所 HP より)

※エン麦野生種は、正式にはセイヨウチャヒキ (*Avena strigosa*) と称し、エンバク (*Avena sativa*) とは別種です。

本資料では、なじみのあるエン麦野生種で表記を統一しました。

令和5年秋の農作業安全確認運動(9/1~10/31)

作物の生育が例年になく進んでいます

作業する人全員で、農作業安全を心がけましょう

